

Ⅲ 武豊町の取組

1 武豊町における通常の学級に在籍する

発達障害等の児童生徒への指導・支援体制について

2 武豊町の事例

- ①「音が気になって、集中力が途切れてしまう子のために
— 落ち着いて生活できる環境づくり —」
- ②「聴覚過敏の子どもが音楽の授業を楽しむために
— 音楽科担当教員と連携した授業づくり —」
- ③「教師の注意を引くための行動が多い子を支えるために
— 自己有用感を育てる声かけ —」
- ④「書字に苦手さのある子のために
— 子どもの実態に合わせた配慮 —」
- ⑤「安心して小学校生活をスタートできるように
— 小学校生活の事前体験 —」
- ⑥「安心して中学校生活をスタートできるように
— 小学校から中学校への移行支援 —」
- ⑦「保育園から高等学校まで支援情報をつなぐために
— 武豊町の保・小・中・高の連携 —」

※武豊町の事例では、出町書房「かわいいイラスト 12か月と楽しいフキダシ」「毎日使える〔ミニ指導とメッセージ付きイラスト〕資料集」よりイラストを使用（出町書房より許諾済）

武豊町における通常の学級に在籍する 発達障害等の児童生徒への指導・支援体制について

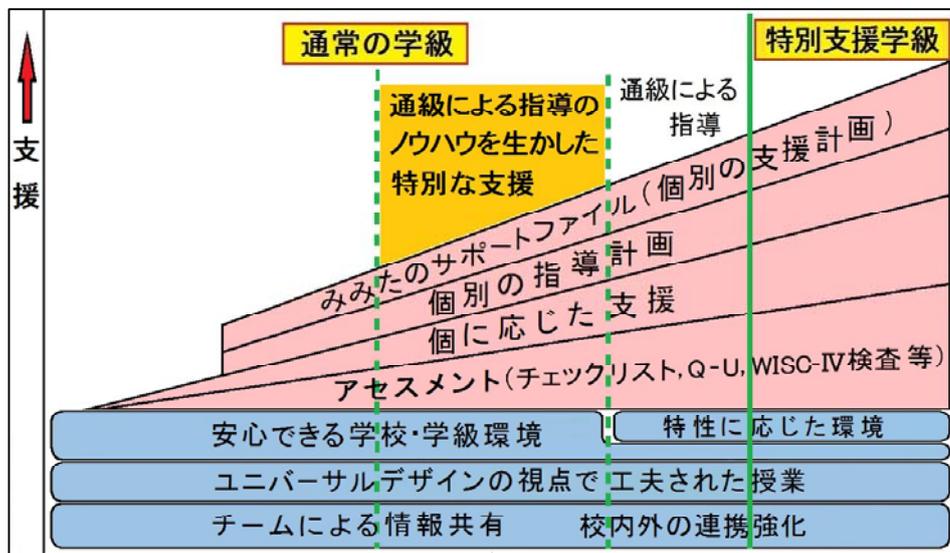
武豊町では、次の3点を中心に町全体の研究として、指導・支援を行ってきた。

- ①研究の意義や方向性の共有と町全体としての研究体制の構築
- ②学校内、学校間の連携による継続した指導・支援
- ③通級による指導のノウハウを活用した指導・支援

1 課題の共有と研究体制の構築

(1) 支援に関する基本的な考え方

「安心できる学校・学級」「ユニバーサルデザインの授業」を土台とし、『個の特性に応じて、適切な方法でニーズに合った支援をする』ことを、基本に研究を進めた。



(2) 研究意義の周知と発達障害等に係る研修の実施

町全体で研究実践を進めるにあたり、職員の意識の高まりが重要であると考え、研修や会議において事業の意義や実践の方向性を繰り返し伝えた。

- 町教育支援委員会実務者会議、校長会、教頭会、教務会において、研究方針等を協議し各校での実践に生かすなど、町全体の研究として位置付けた。
- 通級による指導部会を設け、通級指導教室担当教員の力量向上と情報交換を行った。
 - ・児童生徒の情報引継ぎ
 - ・アセスメント研修
 - ・県外研修等の伝達
- 各種研修会の開催を町全体に通知し、より多くの教職員が「通級による指導を通常の学級に生かす」ための考え方を深められるようにした。
 - ・モデル事業評価専門員による学校訪問（各校の関係職員）
 - ・ユニバーサルデザインを導入した授業づくり（拠点校職員、各校の関係職員）
 - ・教育支援委員会実務者会議での研修会（保育園、小・中学校、高等学校、行政、関係機関等）
 - ・特別支援教育モデル事業夏季研修会（町内の参加希望教職員）

2 学校内、学校間の連携による継続した指導・支援

(1) 通級指導教室と通常の学級との連携

- 各学校内では、通級指導教室担当教員・特別支援教育コーディネーター・教務主任がチームを組み、困り感をもつ児童生徒の担任との相談を行った。その後、授業参観等

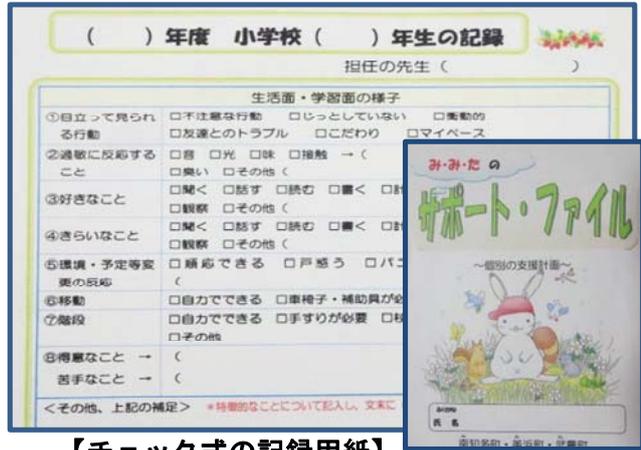
による実態把握、指導・支援の実際、効果の把握・見直しなどを継続的に実施した。
 ○通級による指導に関する現職教育を実施し、児童生徒の実態把握や指導方法に関する考え方を学んだり、通級による指導で使用する教材を体験したりすることを通して、通常の学級担任と通級指導教室担当教員との連携が深まるよう努めた。

(2) 保育園・小学校・中学校・高等学校、関係機関との連携

武豊町の特長である「異校種の交流（縦の連携）」「関係機関との会合（横の連携）」を生かし、切れ目のない支援を行った。

○個別の支援計画「みみだのサポートファイル」を保育園入園前から高等学校まで引き継ぎ、進級・進学時にも一貫性のある支援を行えるようにした。

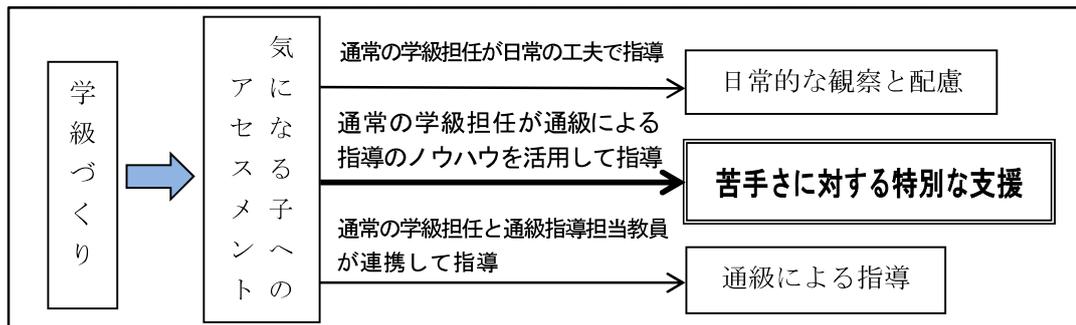
○会議や研修会を通して、町内の関係機関にも本研究で実践している取組について理解を得ることで、校外外での指導・支援に一貫性をもたすようにした。



【チェック式の記録用紙】

3 通級による指導のノウハウを活用した指導・支援

各学校では、下図のような支援構想を基に、その子に応じた支援を行った。



(1) 安心できる居場所としての学級づくり

発達障害のある児童生徒にとっても、教室が自分を認めてもらえる安心できる場所であるために、各校では、次の3点に取り組んだ。

- 温かなことば遣い、笑顔で対応することなど、学級づくりのために必要な教師のスキルを共通理解した。
- 発達障害等に関する基礎的な知識を理解するための研修を行った。
- 児童生徒の昨年度までの情報や効果的な支援方法などを収集した。

(2) 気になる子へのアセスメント

特性を多面的・多角的に捉えるため、様々な検査や過去の記録分析を進めた。

- チェックリストをグラフ化し、児童生徒の長所と困り感を視覚的に把握した。
- 「WSC-IV」「Q-Uテスト」などを通して、児童生徒の特性や意識等を把握した。

(3) 全体指導における個別な支援

アセスメントの結果、「全体指導における個別な支援」が必要ではあるが、通常の学級担任による日常の工夫だけでは十分な効果が得られないと判断された児童生徒に対しては、通級による指導のノウハウを活用した「苦手さに対する特別な支援」を行った。